

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500111		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社 中津川支店		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家		
所在地	岐阜県中津川市手賀野321番地		
自己評価作成日	令和6年12月26日	評価結果市町村受理日	令和7年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2191500111-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①母体法人の組織的な研修体制が整っている。サービス管理、リスク管理、スタッフ育成について学ぶべき人材が定期的に研修を受けている。 又、新しく入った人材を育てる為の中間的な役割を担ってもらう為の研修もあり、職員の資質向上、スキルアップに欠かせない体制が整っている。</p> <p>②普段から利用者様の体調面、心理面等で変化があった場合に家族様に逐一報告。何かあった時にすぐに対応していただけるように信頼関係の構築に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>介護事業を全国展開している母体法人には多くのノウハウがあり、就業環境、研修体制も整っている。職員研修や各種委員会活動では、「一人ひとりの職員の意識の継続と理解」を大事にしている。設備や備品、生活環境の整備が定期的に行われ、利用者が清潔で心地よく日常生活を送れるように支援している。「センター方式」のシートを活用し、職員が利用者一人ひとりの思いに寄り添い、心身の状況を把握するよう努めている。郵送による「便り」とSNSを利用した細やかな情報共有は、利用者・家族の安心に繋がっている。職員は、家族が持つ利用者の情報も得ながら、個別ケアに活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を元に社会常識や社内ルールが話し合えるように常にスタッフ同士も「共に」を大切にしている。	玄関や会議室、各フロアに理念を掲示している。また、スタッフ会議やカンファレンス前には、理念を唱和し職員への意識付けを行なっている。職員が笑顔で接することで、利用者も自然に笑顔になるような穏やかな支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、盆踊りのお誘い(天候不良で中止)、地域清掃参加の継続。隣人から一輪車いっぱいのお誘いをいただいたり干支の飾り物をいただいた。ラジオ体操の最終日には記念品を利用者様から子供たちに手渡してもらった。	地元高校生の介護実習受け入れを行なったり、小学生のラジオ体操の場として、駐車場を提供するなど、地域住民や子供たちとの交流がある。また、管理者が毎月地域の清掃活動に参加し、住民と関わりながら、事業所への理解に繋げ、地域の情報収集等にも役立てている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、近隣の方、区長様、家族様が参加して下さるようになり、相互理解、サービス状況の説明が出来ている。行政からは地元福祉科の高校生の介護施設就職に繋がる様な取り組みを発信してもらっている。	運営推進会議は行政や区長、近隣住民、家族の参加もあり、活発な意見交換をしている。議事録は意見交換の内容を分かりやすく丁寧に記載し、利用者の生活の様子が分かる写真を添えた「運営だより」として、全家族に送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設で転倒～入院事案、または入院されなくても受診～処置があった場合は速やかに行政の担当部署に事故等発生報告書の提出をして実情を伝えている。	運営推進会議には行政の参加があり、市の認定調査員との連絡や調整等、報告・連絡・相談などで連携を図っている。隔月に、介護相談員の受け入れを行い、利用者ニーズの把握や情報の共有など協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会議の場で法定研修を行う事により、スタッフの理解は深まってきた。時々身体拘束になりかねない事案を管理者が見たり聞いたりしたら都度周知するようになっている。	3ヶ月に1度の委員会開催前に、意識と理解の確認のため、全職員にアンケートを実施している。アンケート結果をもとに、フロアごとに職員研修を兼ねた身体拘束適正化委員会を開催している。委員会は、継続が重要という観点から、職員個々の振り返りと周知の場としている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律を学ぶ機会が設けられなかったが利用者様の変化をキャッチし、記録に残しスタッフ間で共有している。	定期的に虐待防止委員会や職員研修を実施している。委員会では虐待の定義を確認し、どのようなことが虐待にあたるのか、虐待が発生した場合の対応方法について職員間で話し合い、虐待を見逃さない支援に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会の議事録は分離されているが、実施時間や場所の記載がされておらず、議事録の様式の見直しに期待したい。また、各フロアから委員を選出し、事業所としての議事・記録をまとめることが望ましい。

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に伝える機会を作っていきたいと思っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面と口頭で細かく丁寧に説明している。入居後も問い合わせがあった場合には説明させていただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の再開によりご家族の意見・要望を聞ける様になり、ケアプランの説明にも来設いただいで、その内容を職員にも承知している。家族様から何らかの意見があった時に書面にして会議の場で職員に周知し、今後の対応を検討するようにしている。	運営推進会議議事録は「運営だより」と兼ねており、活動状況や利用者の暮らしぶりが分かる写真を掲載し、定期的に家族に送付している。会議に参加した家族から、有事の際には家族を含めての連絡網作成案が出され検討している。事業所と家族間にSNSの連絡システムがあり、一斉連絡や個別の情報共有に役立っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社主体の職場懇談会の場を設けており、全職員から事前アンケートをとり、従業員代表者が職員の意見、提案を伝える機会がある。	管理者は、日常的に職員と共にケアにあたっており、職員の意見や要望、提案等を聞いている。また、個別相談にも応じている。職場懇談会があり、全職員のアンケート結果や意見等を本部へ伝える機会がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員への年度始めの自己申告書記入を依頼。内容を代表者、管理者が熟読後2段階コメントし、中間フォロー、最終フォローを経て職員の意識向上に繋がる方向へ持っている様努力をしている。	キャリアパス制度を導入している。個々の目標や働き方に関することを確認しながら、職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。年度始めには、各職員がエプロンと靴の購入費として補助がある。休憩室も整備されている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中津川市、恵那市にて感染症、口腔ケア、身体拘束虐待防止研修など、外部研修に参加する機会があった。	研修は、年間計画に沿って受講することができる。外部研修に参加した職員は、受講後に報告書を書き、それを職員間で回覧し内容を共有している。本部が配信している研修用の動画は、いつでも職員が視聴できる仕組みになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	中津川市のGH部会へ出席している。他GHの外出、外泊などの取り扱いの状況を聞くことができている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の特性を良く知り、自分の親だったらどうするか等を考え、安心して過ごしていただけるようにと努力している。誕生会を開き寄り添う工夫もしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご利用者様の動向に注視。時には行事を通じてご利用者様と密に接して、ご利用者様の思いや出来ること、出来ないことを探り、ニーズをキャッチするようにしている。	利用者との会話で気づきがあれば、個別記録にも記載し、職員間で情報共有している。入居時に、利用者の思いや生活歴などを綴る用紙を家族に提出してもらっており、直接、聞き出せない多くの情報を得て、利用者の思いの把握に活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心に、ケアプラン更新に向けて課題の抽出、家族様、本人様の意向確認、モニタリングを経て現状に即した介護計画を作成している。完成したケアプランは家族様に来設いただき、内容説明、確認の上サインをいただいている。	個別記録には、計画に基づくケアの実施や利用者の様子を記録している。ケアマネジャー、計画作成担当者が家族に確認をし、意向に沿った介護計画を作成している。計画の見直しをした際は1週間実施し、計画続行か否か判断をしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式24時間生活変化シート(D-4)使用し、気づきや工夫を記入すると共に再度申し送り、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かす事が出来ている。	「24時間生活変化シート」下部に、計画に基づくケアの実施をチェックする欄を設けている。職員の勤務時間帯ごとに、支援目標の優先順位を確認しながら支援を行っている。利用者が発した言葉なども記録に残し、職員間で情報を共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チーム(ご利用者、ご家族、医師、職員)で都度情報共有、支援できるようにしている。	病院受診の際は、有料で付き添い代行を行っている。緊急時には、家族が病院に到着するまで、利用者につき添っている。また、家族に代わって、衣類の購入代行サービス等も柔軟に行なっている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には誘っていただいている。新たに区長さんから月1回地域の高齢者の方を集めてお茶会をしていると聞き、暖かくなったら参加させていただく予定。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、引き続きかかりつけ医で受診するのか、協力医に変更するのかの選択を家族様や本人様に決めていただいている。協力医に変更の場合はかかりつけ医に本人様の情報をいただいている。歯科は、不具合時に往診に来てもらえるよう連携している。	契約時に、かかりつけ医継続も可能であることを説明しているが、現在、全利用者が協力医を選択し2週間に1度、往診を受けている。同法人の他事業所と兼務の看護師が行き来し、利用者の健康管理を担っている。看護師は事業所の携帯を持ち、オンコールで医療面の報告・連絡・相談を受け、職員や家族と適宜情報を共有している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院後の受け入れ等、医療機関の退院調整部門との情報交換を行ったり、入院中にも連絡を取り合っている。病院と情報提供書の取り交わしをしている。	利用者が新規の病院受診をする場合や、入院する際は、情報提供書を作成し医療機関に状況を伝えている。入院中の利用者の状態については、適宜、医療機関と連絡を取り合いながら、利用者情報を共有している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験はない。家族様に重度化に向けての意向や終末期はどのように希望されているのか聞き取りをしている。他のサービスの提案などを行っている。また明らかに状態が悪くなったり、入退院にて状態が変わってしまった場合、意向確認書をいただいている。	契約時に、重度化や終末期の支援について意向を聞き、事業所ができることを説明している。看取りは行っていないが、状態の変化を見極め、家族と話し合いながら支援方法を決定している。状態変化に応じて意向を再確認している。サービス種別ごとに決められた役割分担があり、その仕組みにより入退所の連携がスムーズに行えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応の研修や常に注意事項等のアドバイスを受けている。管理者が応急手当普及員講習を受け、修了したため、早い段階で応急手当の訓練を行いたいと思っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定しての訓練の実施、またその後の訓練をしてみようだったか、災害時に何が必要だと思うか全職員にアンケートをとっている。	防災訓練は年2回実施しており、BCPも策定済みである。備蓄に関して、全職員が把握できるように確認訓練を検討している。保管場所や備蓄品の種類、プロパンガスを使い煮炊きができるか、避難経路の危険箇所の確認等、実践を通して情報収集する予定としている。AEDは玄関に設置してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入らせていただく時は本人様への声掛けを徹底している。トイレ時、プライベートな空間である事をしっかり心掛け、言葉かけの内容を選んでている。	浴室やトイレ前のスペースが、通路からは見えないようカーテンを掛けている。「夏は風が通るところで昼寝をしたい」と利用者の希望があり、居室前に暖簾を掛けている人もある。入居時に名前の呼び方を確認しており、希望する呼び方で声かけをしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床準備時、食事時、就寝時などいかなる場面でも「どちらが良いか」「どれが良いか」と自己決定を促している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様がしたい時にしたい事が出来る様、しっかり言葉を聞き、希望に添って支援している。それぞれが過ごしやすい様に考えるようにしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎のイベントでは豪華なお弁当にする。誕生日には好物を伺う等している。	配食サービスを利用しているが、主食と汁物は事業所で調理している。付け合わせの野菜も湯通しやトマトの皮を剥いたり、きざみやとろみなど、手を加えて利用者の状態に合わせた形態で提供している。おはぎや朴葉寿司を利用者と一緒に作ることもある。誕生日の献立は本人の希望に応じている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか摂れない方でもどうしたら飲んでいただけるか、工夫をしている。食事量、水分量の記入も随時行い、少なかったりしたらすぐに職員と共有している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来ない方には介助にて口腔ケアを行っている。就寝前には義歯を洗浄剤に漬けている。制度を利用して希望された方の歯科検診を実施している。	口腔ケアを自身で行う事が難しい利用者には、職員が介助している。就寝前は、全員の義歯を洗浄し洗浄剤につけている。居室に近い洗面台には口腔ケア用具が準備されており、利用者が希望すれば、いつでも利用できるようになっている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便秘が続くと意識消失される方がいらっしゃるのと特に気を付けている。失敗があると落ち込んだり、認めたくなく怒り出す方もいらっしゃるのと定期的にトイレ誘導、誘い方も工夫して失敗を減らすようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入りたいという利用者様の希望には添えていない。バイタル、体調不良にてタイミングがずれる場合もあるが入れなくても下着交換、洋服交換で清潔を保つようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、休みたいときは居室で休んでいただき、就寝前も気分が高まる事のないように、穏やかな気持ちでいられるような支援を心掛けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入した。服薬内容一覧表は継続。薬をセットする業務はなくなったが、薬剤師からの申し送り、服薬時の確認等、情報のもれがないようにしている。	居宅療養管理指導の導入により、薬剤師がセットした薬が届けられている。投薬変更等は、薬剤師から書面にて申し送りがあり、業務日誌へ転記し全職員に周知している。服薬支援時は、複数名で確認し、誤薬防止に努めている。自分で服薬する利用者には、見守りや手を添えるなど、落薬がないよう気を付けている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の出来ること、出来ないことの把握に努め、生き生きと過ごせる様に、又役割として捉えていただける様に支援している。	利用者は、職員と一緒に洗濯物干しや洗濯物畳み、また、可能な範囲での食事の準備やゴミ出しなど、日常生活の中で利用者ができる作業を役割として出来るよう支援している。夏の家庭菜園の水やりをしながら、収穫を楽しみにしている利用もある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的なドライブは継続。ウッドデッキで職員が手作りしたお弁当でピクニックをした。中距離にお住まいの家族様に丸一日ドライブに連れて行ってもらう事があった。	花見や紅葉狩りなど、季節ごとに外出支援を行っている。家族と一緒に外出、外食に出かける利用者もある。人員不足にある中でも、工夫を凝らしながら利用者の希望にできるだけ沿えるよう努めている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使っていたく機会が作れなかった。分かる方は財布をそのまま持っていて。今後の外出状況によっては使用できる機会を設けたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはかけてお話をしている（携帯電話保持者）。又は家族からかかってきてお話す。お手紙が送られてくる、こちらから絵手紙を送るといったやりとりをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事を行ったり、玄関に季節毎のオブジェを作成したりしている。冬場は換気をしながら暖房でなるべくフロア内の温度差がないように（トイレの扉開ける。カーテンで代用）工夫している。	リビング・ダイニングは、仕切りもなく広くて明るい。行事に合わせてテーブルを移動させ、安全に実施できるよう工夫している。利用者が常に快適に過ごせるよう温湿度管理を行い、整理整頓と清潔保持に努めている。また、行事の飾りつけ等で季節を感じられるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食堂やソファでテレビを観たり、自席で新聞を読んだり、塗り絵、パズルをされ思い思いに過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物に囲まれて、本人が安心、リラックスして過ごせるように使い慣れた物、なじみの物を持ってきていただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に矢印でトイレと書いた紙を設置したり、利用者様の動線に物を置かない、歩行器の設置場所を決める等、利用者様目線重視で工夫をしている。利用者様の居室にそれぞれの名前を書いたカードをつけて分かりやすいようにしている。		